

開催日及び場所	平成26年2月19日(水)	横浜植物防疫所会議室		
委員	吉武 雅子(大学講師) 畑中 隆爾(弁護士) 中川 隆(公認会計士)			
審議対象期間	平成25年10月1日～平成25年12月31日			
審議対象案件	13件 うち、1者応札案件2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件			
抽出案件	6件 うち、1者応札案件2件 (抽出率46%) (抽出率100%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件 (抽出率-%)			
抽出案件内訳	工事	一般競争	—	
		指名競争	公募型指名競争	—
			工事希望型競争	—
			その他の指名競争	—
		随意契約	—	
	業務	一般競争	—	
		指名競争	公募型競争	—
			簡易公募型競争	—
			その他の指名競争	—
		随意契約	公募型プロポーザル	—
			簡易公募型プロポーザル	—
			標準型プロポーザル	—
	その他の随意契約		—	
	物品・役務等	一般競争	4件 うち、1者応札案件2件 契約の相手方が公益社団法人等の案件0件	
		指名競争	—	
		随意契約(企画競争・公募)	—	
		随意契約(その他)	2件 うち、契約の相手方が公益社団法人等の案件0件	
(特記事項) 特になし				
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答等	
	『動物検疫及び植物防疫の業務・システムに係るハードウェア等の撤去業務』 ・ハードウェア撤去の際のセキュリティは確保されているか。		・応札条件にISO取得等の資格要件を設けており、セキュリティは確保されている。	
	『北海道出張所における検疫探知犬の育成及びハンドリング等委託業務』及び『川崎分室における検疫探知犬の育成及びハンドリング等委託業務』 ・実質1者しかいなければ随意契約になるのではないか。  ・今回は国庫債務負担行為だが、従来は単年度契約だったのか。今回は国庫債務負担行為になっていくのか。  ・複数年契約にすると業者は入札しやすくなるか。		・当案件は契約金額が大きく、犬の納品(物品の購入)が含まれるため政府調達で実施した。 把握している限りでは国内の業者は2者であるが、広く世界に向けて公告しているため、海外からの入札があり得る。実際にオーストラリアから1者問い合わせがあり、資料も送付したが今回の入札に参加しなかった。このような可能性もあるので、一般競争の手続きは必要である。  ・従来は全て単年度契約だった。26年度予算では沖縄の探知犬業務があり国庫債務負担行為による複数年契約である。ただし、官がハンドラーを育成する分については犬の納品のみ契約を行うことから単年度契約を行うこととなる。  ・業者では犬1頭につき1名のハンドラーを雇用しているが、単年度契約だと不安定であったため5カ年契約になり非常にありがたいと聞いている。	
	『パーソナルコンピュータ85台購入』 ・パソコンのメーカーは指定しないのか。		・競争性を高めるため、メーカーの設定はしていない。仕様書に記載されている条件をクリアしていれば問題ない。	
	『輸出入・港湾関連情報処理システム(NACCS)(動物検疫検査手続機能)利用一式』 ・これは3月までに業務が終わるのか。		・単年度契約であるため、25年度は3月までだが、26年度以降も利用契約として引き続き随意契約を行う。	
『フライト情報提供契約』 ・4ヶ月の契約で130万円は高くないか。		・情報提供料の他、機器の修理や減価償却等のコストも考慮し積算されているものと思われる。		
委員会による意見の具申又は勧告の内容 [これらに対し所長が講じた措置]	特になし			